

▶ 株式および株主の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数	125,291,112株
株主数	6,718名

▶ 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,761	9.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	7,582	6.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,648	4.51
株式会社伊予銀行	5,329	4.25
株式会社愛媛銀行	4,717	3.76
ミウラグループ従業員持株会	3,810	3.04
愛媛県	3,000	2.39
公益財団法人三浦教育振興財団	3,000	2.39
いよぎんリース株式会社	2,906	2.32
JP MORGAN CHASE BANK 385632	2,771	2.21

(注)1.当社は、自己株式12,594千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため、上記の大株主から除外しております。
2.出資比率は、発行済株式の総数に対する持株数の割合を表示しております。

▶ 会社概要

社名	三浦工業株式会社
設立	1959年5月1日
資本金	9,544,007,333円
本社	〒799-2696 愛媛県松山市堀江町7番地 TEL (089) 979-7045 (経営企画室)

▶ 役員の状況 (2020年6月26日現在)

取締役会長	高橋 祐二	取締役 常務執行役員	越智 康夫
代表取締役 社長執行役員	CEO 宮内 大介	社外取締役	樋口 建史
代表取締役 副社長執行役員	COO 西原 正勝	取締役 常勤監査等委員	原田 俊秀
代表取締役 専務執行役員	武知 教之	社外取締役 監査等委員	山本 卓也
取締役 常務執行役員	児島 好宏	社外取締役 監査等委員	佐伯 直輝
取締役 常務執行役員	米田 剛	社外取締役 監査等委員	安藤 吉昭

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)
インターネット ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
よくあるご質問 (FAQ)	https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座をご利用でない株主様は、左記の電話照会先までご連絡ください。なお、お手続き方法やよくあるご質問は、左記「よくあるご質問 (FAQ)」サイトでご確認いただけます。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といひます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。

公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができないときは、日本経済新聞に掲載。
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第一部



そのひらめきに、愛はあるか。



サステナブルツリーと子どもたち

地球と子どもたちの未来のために世界中の社員とその家族一人ひとりが取り組む“ひらめき”と“愛”のメッセージを「ひとり、ひとりの+を。」というテーマで集め、サステナブルツリーを制作。ショールームや60周年特設サイトに掲載しています。

IR REPORT

第62期 株主通信

2019年4月1日～2020年3月31日

熱・水・環境のベストパートナー

Miura



平素は格別のご支援、お引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびの新型コロナウイルス感染症の影響を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

2019年、ミウラグループはお陰様で設立60周年を迎え、様々なイベントを通して皆さまに感謝をお伝える一年となりました。ここまで支え、応援して下さった株主さまをはじめ、すべてのステークホルダーの皆さまに、改めて感謝申し上げます。

ミウラグループは、100年企業に向けて新たな歩みを進めておりますが、社員一人ひとりが企業理念である「熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献します」の実現に向けて、これからも世界中のお客様に愛され、信頼されるベストパートナーとして、省エネルギーと環境保全でお役にたてるよう日々邁進してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第62期決算の事業の概況

当期の概況につきましては、国内においては、主力の小型貫流ボイラや船用機器の売上が伸び、メンテナンス事業も堅調に推移しました。海外においては、新型コロナウイルス感染症

の影響はありましたが、省エネルギー・環境負荷低減を基本としたソリューション提案営業によりボイラ販売が好調に推移しました。また、メンテナンス事業も堅調に推移しました。

利益面につきましては、60周年フェア費用や人件費が増加しましたが、増収効果により増益となりました。

売上収益は143,645百万円(前期比3.4%増)、営業利益は18,540百万円(前期比11.1%増)、税引前利益は18,756百万円(前期比9.5%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は13,746百万円(前期比11.9%増)と、それぞれ過去最高を更新しました。

ミウラグループの経営方針

ミウラグループは、「熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献します」を企業理念に掲げ、その実現のため、エネルギーの有効利用や環境関連の分野で有用な製品やサービスを独自の技術力で創出し、世界のお客様のお役に立つことを目指しております。

その上で、企業価値の最大化を目指して透明性や効率性の高い経営に努め、株主をはじめとするステークホルダーの皆さまの期待と信頼にお応えするとともに、健全な成長を図って企業の社会的責任を果たしてまいりたいと考えております。

さらに、ミウラグループは、「我々はわが社を最も働きがいのある、最も働きやすい職場にしよう」をモットーに信頼・連帯感・誇りで結ばれる風通しの良い職場の実現を目指し、働きがいのある企業風土づくりや人材育成などに取り組み、成長し続けるための基盤強化を図ってまいります。

事業環境を考慮した今後の見通し

国内においては、今後も事業活動が制限された状況下での事業運営が続くと見込まれますが、引続きお客様の視点に立ち「トータルソリューション」提案活動を推進していきます。

海外においては、各国で大きく状況は異なりますが、環境規制に伴うボイラの提案、新規顧客の開拓や提案営業の強化により、機器販売を推進してまいります。メンテナンス事業は、社員教育に注力し、引続き有償保守契約の取得件数の増加に努めてまいります。

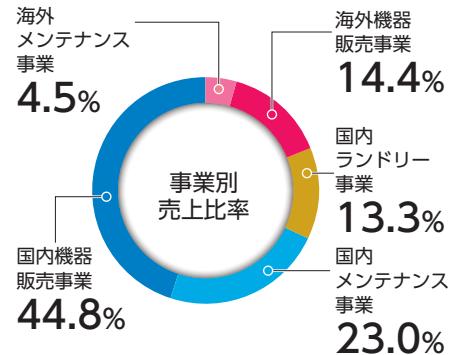
財務ハイライト (IFRS)



- ここが POINT
- 過去最高の売上・利益を達成
 - 国内は主力の小型貫流ボイラや船用機器の売上が堅調
 - 海外は韓国と米州においてボイラ販売が堅調
 - メンテナンス事業、国内外とも堅調
 - 積極的な有償保守契約取得
 - 国内ランドリー事業は売上低調
 - インバウンド需要が落ち着いたことによる大規模投資の減少



基本的1株当たり当期利益 2020年3月期 122円01銭 (予想)2021年3月期 97円63銭



業績について

売上収益

143,645百万円

前期比 3.4%

- 国内は、主力の小型貫流ボイラや船用機器の売上が伸び、メンテナンス事業も堅調に推移。
- 海外は、新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、省エネルギー・環境負荷低減を基本としたソリューション提案営業によりボイラ販売が好調に推移。

営業利益

18,540百万円

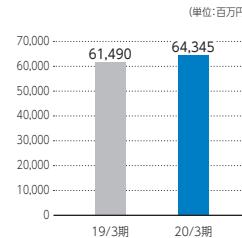
前期比 11.1%

- 60周年フェア費用や人件費が増加したが、増収効果により増益。

国内機器販売事業

売上収益 64,345百万円 前期比 4.6%

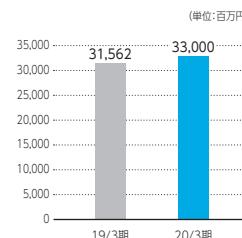
- 既存設備の維持更新による需要に支えられ、主力の小型貫流ボイラの売上が堅調に推移。
- 船用機器においても、バラスト水処理装置や船用補助ボイラなどの売上が堅調に推移。



国内メンテナンス事業

売上収益 33,000百万円 前期比 4.6%

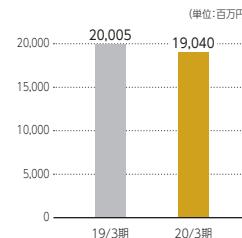
- ボイラ有償保守契約件数の増加や各事業が連携した提案活動を実施したことにより、売上に貢献。



国内ランドリー事業

売上収益 19,040百万円 前期比 △4.8%

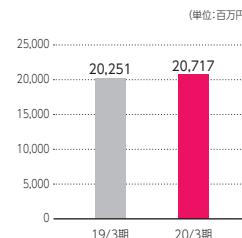
- 人手不足や人件費・物流費などのコスト上昇に伴い、設備全般の運用効率化を目指した省力化や自動化へのニーズは引き続き堅調に推移。
- 近年のインバウンド需要が落ち着いた事もあり、大規模な投資が減少したことから低調に推移。



海外機器販売事業

売上収益 20,717百万円 前期比 2.3%

- 韓国と米州においてボイラ販売が堅調に推移。
- 中国では新型コロナウイルス感染症の影響もあり低調に推移。



海外メンテナンス事業

売上収益 6,484百万円 前期比 17.8%

- 中国での低NOx対応や各国での有償保守契約の積極的な取得により、契約件数を伸ばした。



中期経営計画

ミウラグループの中期経営計画は、3年先のありたい姿を次年度の経営計画に反映いたします。3年間という時間軸は設けますが、3年間固定するという意味ではなく、世界情勢や事業環境の変化等を考慮し、每期計画を更新・見直しする「ローリング方式」を採用しています。

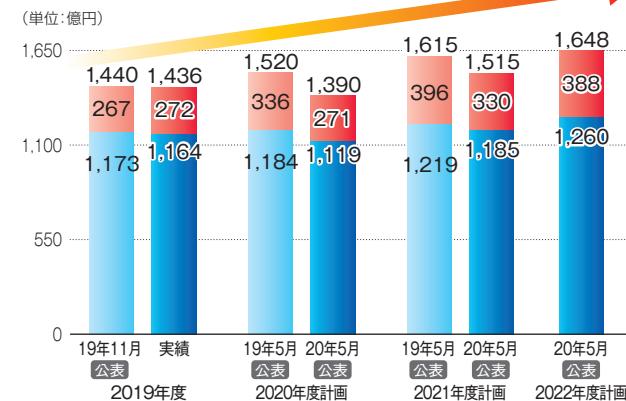
数値目標

	2020年3月期実績	2021年3月期計画	2022年3月期計画	2023年3月期計画
売上収益	1,436	1,390	1,515	1,648
営業利益	185	150	183	204
営業利益率	12.9%	10.8%	12.1%	12.4%

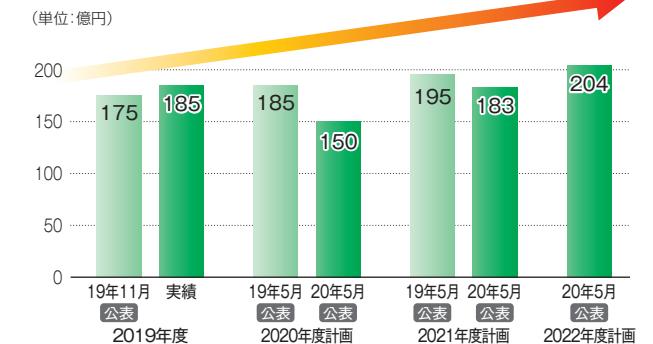
為替 (平均レート)	2019年3月期	2020年3月期	増減率	2021年3月期計画	増減率
USD	110.92	108.70	△2.0%	108.00	△0.6%
元	16.54	15.60	△5.7%	15.00	△3.8%
WON (100W)	9.98	9.21	△7.7%	8.90	△3.4%

国内:「トータルソリューション」提案活動により堅実な成長を維持
海外:中国経済の減速による影響

売上収益



営業利益



軟水で
ラクラクお掃除 & スキンケア
快適生活はじめませんか?

家事ラク

汚れが減って
水まわりの
お掃除ラクチン

水道水使用
(築8年)
の浴室

水まわり
清潔

浴室の汚れや
カビ汚れの一因
石けんカスを抑え

より清潔な
水まわりへ

らくらく
スキンケア

石けんカスの
生成を抑え
お肌にやさしい

ミウラの家庭用軟水器



軟太郎
ソフトーナ®

ずっと快適な
軟水生活
もっとしあわせ

詳しくは、ホームページをご覧ください。

ミウラの軟水 検索
http://www.nansui.jp

「2019年度省エネ大賞」にてトリプル受賞！ ～低炭素化に向けた取り組み～

ミウラは、製品・企業価値を高めるため、長年にわたり「省エネ」による環境保全に向けた取り組みを積極的に行ってまいりました。このたび、その取り組みが認められ、「省エネ大賞」をトリプル受賞いたしました。

◆「省エネ大賞」の目的

一般財団法人省エネルギーセンター（後援：経済産業省）の主催事業で、2019年度で9回目となる本表彰制度は、国全体の省エネ意識の拡大や省エネ型製品の普及などによる省エネ型社会の構築に寄与することを目的に、毎年実施されています。

◆選考方法

100件以上の応募から、学識経験者やエネルギーの専門家等からなる審査委員による書類審査、発表、現地確認を経て、2019年度は「製品・ビジネスモデル部門」で27件、「省エネ事例部門」で25件の受賞が決定しました。ミウラは「製品・ビジネスモデル部門」で2件、「省エネ事例部門」で1件受賞いたしました。

2019年度省エネ大賞受賞企業 出典：2019年度（令和元年度）省エネ大賞 受賞者一覧

JFEスチール株式会社、シャープ株式会社 三重事業所、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、TDK株式会社 浅間テクノ工場、三菱電機株式会社 他



省エネ大賞表彰式

製品・ビジネスモデル部門

資源エネルギー庁長官賞受賞

ヒートポンプを活用した高効率ボイラ給水加温ユニット VH-155L

今まで使われていなかった低温廃水や循環冷却水を有効活用し、ボイラの燃料消費量を削減できる省エネ機器です。ミウラ独自の高効率ヒートポンプで、一般的なヒートポンプの約2倍となるCOP 10.2を達成しました（特許取得）。さらには、L2-Tech*認証製品として登録されました。

*エネルギー起源二酸化炭素の排出削減に最大の効果をもたらす先導的(Leading)な低炭素技術(Low-carbon Technology)

一般的なヒートポンプに比べて
消費電力もCO₂排出量も**50%削減**



ボイラ給水加温
ユニットVH-155L



省エネルギーセンター会長賞受賞

省エネ・省水型RO装置 MRO-Cシリーズ

独自のセンシング技術と制御技術を搭載した省エネ・省水型のRO装置です。RO装置は、水中に溶解したイオンや不純物を90%以上除去する性質を持つRO膜を利用した脱イオン処理により、高純度の水を製造する装置です。

電子機器・精密部品の洗浄用水や、製薬・化粧品の製造用水などに利用されています。

消費電力とCO₂排出量は**30%削減!**
(従来型MRO-B比)



ランニング
コスト
約45%削減
(従来純水システム比)

ポンプ
電力消費量
年間平均
30%削減
(従来型MRO-B比)

水使用量
年間平均
10%削減
(従来型MRO-B比)



RO装置
MRO-6000CG

省エネ事例部門

省エネルギーセンター会長賞受賞

全員参加の「草の根運動」による省エネルギーの推進

4,062名のミウラ国内全従業員（2019年3月末時点）が事務所、工場、拠点で取り組んだ「省エネ草の根運動」が評価されました。ミウラでは、省エネ商品をお客様に提供するだけでなく、一人一人が身近なところから環境保全に貢献しようという意識を持ち、日々の業務に取り組んでいます。

具体的な草の根運動

- 1 従業員の省エネ意識改革を狙いeco検定制度を推奨**
全従業員の47%がeco仙人として認定(2019年3月末時点)。
- 2 エネルギー使用状況や省エネ活動を「見える化」**
所属部門毎のエネルギー使用量や省エネ活動状況を個人のPCで確認。
- 3 省エネコンテストの開催**
省エネアイデアや省エネ活動事例を社内でコンテストとして募集。3年間で256件の応募があり、216.6kLの省エネを達成(年間平均エネルギー使用量6,851kL/年の3.16%に相当)。これらの活動により特定事業者として4年連続Sクラス*を取得。さらに現在5年連続の見込みです。
*省エネ法による「事業者クラス分け評価制度」

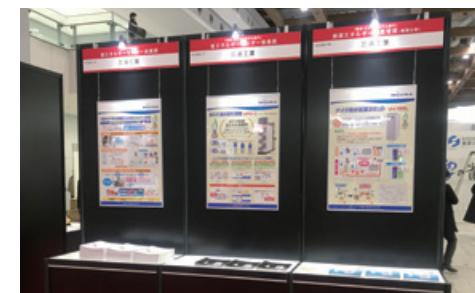
今後は日本ミウラで培ってきた省エネ活動の取り組みを、海外の主要工場にも展開し、グローバルな企業価値の向上に役立ててまいります。



2 エネルギー使用状況や省エネ活動を「見える化」



3 省エネコンテストにおいて優れた省エネアイデアには社内表彰



ENEX2020 アワードコーナー（共同受賞もある中、ミウラはトリプル受賞により3つのパネルが並びました！）